

## 平成29年度 学校評価の結果と分析及び課題

### I 調査の概要

	生徒	生徒(授業評価)	保護者	教職員
回答者数	677	677	644	56
回答率	99.3%	99.3%	94.4%	100%
調査日	H29.11.30	H29.11.30	H29.11.16~22	H29.11.20~24

### II 本年度の重点目標

1. 主体的・協働的な学習による確かな学力の育成
  - (1) 思考力・判断力・表現力等の育成を目指した授業の工夫改善
  - (2) 家庭学習の習慣化による学習意欲の向上
  - (3) 学びの基盤をつくる読書習慣の確立

#### 【アンケート結果の分析及び課題】

「わかりやすい授業」について、教員側の考え方と生徒の受け取り方に多少の開きがあり、生徒の実態に即した見直しが必要と考えられる。また、本校の生徒は定期テストの直前になって勉強に取り組む傾向が強く、学習時間が少ないことが問題としてあげられる。そのため、1年次から家庭学習の習慣化を図ることを目標に、定期的に適切な課題を課すなどの指導が必要だと考えられる。また、基礎学力の定着のために読書習慣の確立も大切だと考える。図書館でも教員の勧める本の紹介等、生徒への働きかけを行っているが、生徒の興味をひく工夫、本を手に取りやすい環境への改善が必要である。

2. 基本的な生活習慣の確立と自己指導能力の育成
  - (1) あいさつ、身だしなみ指導の徹底
  - (2) 交通ルールの遵守と交通安全指導の徹底
  - (3) いじめや学校不適応等の未然防止及び早期発見・早期対応

#### 【アンケート結果の分析及び課題】

あいさつや頭髪服装については、多くの生徒ができているが、一部の生徒への指導が行き届いていないようである。今後、指導の徹底を図っていく必要がある。交通ルールの遵守については、生徒の交通規範意識が低く、生徒は守っていると思っているつもりでも、まだまだ守られていないことが多いため、更に交通ルールの指導の機会を増やしていく。いじめは必ず学校内でおこる可能性があるため、早期に発見できるように生徒の悩みを聞く機会を増やし、早期に解決できるよう努力する。また、教職員全員の共通の認識と保護者との連携を密にすることが今後さらに必要となる。

3. 自己の在り方生き方を考えるキャリア教育の実践
  - (1) 年間を通した体系的なキャリア教育の実践
  - (2) 地域の教育資源を活用することによる専門性の深化
  - (3) 自己肯定感を高める検定・資格取得の奨励

#### 【アンケート結果の分析及び課題】

就職や進学において、多くの生徒が早い段階で内定するといった実績を収めている。その一方で、就職と進学が決めきれない生徒や、就職ではあるが企業・職種が決定できない生徒、進学ではあるが学校を決めきれない生徒が増えている。また、進路や勉強だけでなく、いろいろな場面で「自信が持てない」生徒が増えている傾向にある。3年間を通した計画的なキャリア教育の実践と生徒の実態に応じた見直しや、進路指導部だけでなく、職員間で共通の理解を持って対応していく必要がある。就職については、全職員による企業訪問・開拓・面接指導を継続して実施する、進学では模擬試験の実施など大学への合格に向けて、早くからの受験対策指導が必要である。

4. 特色ある学校づくりと特別活動の活性化
  - (1) 地域連携による体験活動、交流学习の活性化
  - (2) 部活動をはじめとする特別活動の活性化

#### 【アンケート結果の分析及び課題】

ボランティア活動や地域と連携した行事への参加については、保護者と教職員の意識は概ね一致しているが、生徒と保護者・教職員の間には大きな意識格差がある。理由として、実際にボランティア活動や地域と連携した行事に参加しているのは、一部の生徒だけであるということが考えられる。部活動をはじめとする特別活動の活性化については、生徒の取り組みの評価は総じて良いが、保護者、教職員の評価は低くなっている。今後は、生徒が与えられたことの中で得られる満足感だけでなく、生徒が主体的に目的意識を持って行事に取り組むことで達成感を得るなど、生徒自身の成長に繋がる特別活動にしていくことが課題である。